

# **第1章**

## **下水道の現状と課題**

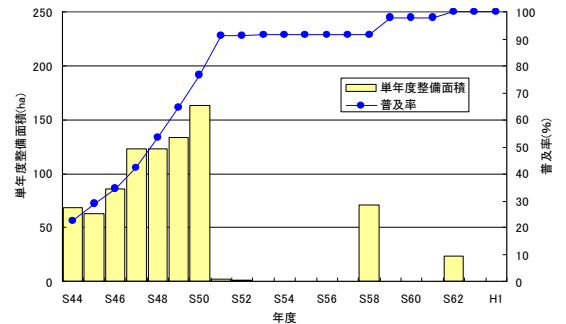
# 1. 事業の現状と課題

## 1. 1 汚水処理・ 雨水排水 (1) 汚水処理の現状

本市は、昭和 27 年から下水道事業に着手し、昭和 62 年に普及率 100%を達成した。

本市の下水道は、3つの処理区を設定し、9割以上が汚水と雨水を同じ管に流す合流式下水道である。

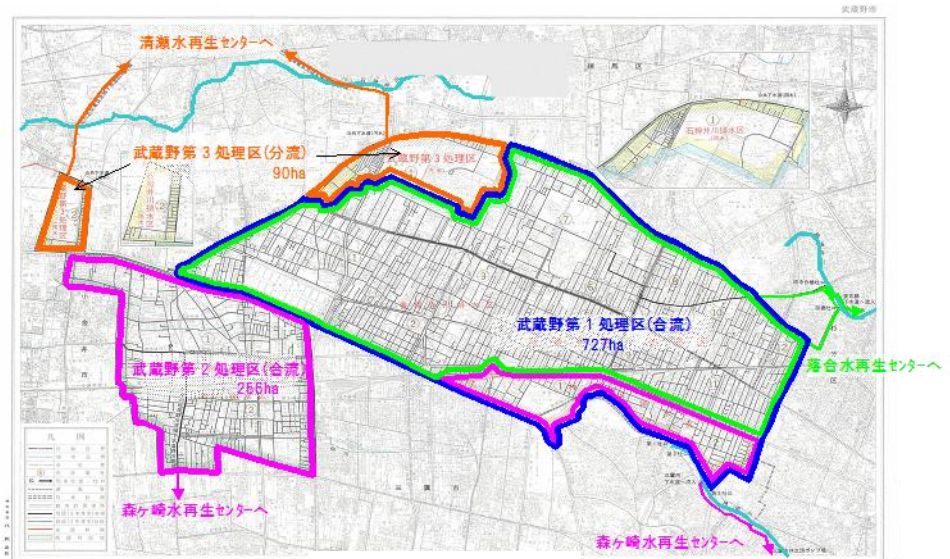
また、本市は独自の処理場施設を有していないため、汚水は東京都の水再生センターに送水し、処理している。ただし、処理場施設整備の遅延等により、上位計画である「多摩川・荒川等流域別下水道整備総合計画（以下、「流総計画」という）」の定める送水先とは異なる処理場施設に暫定的に送水している現状がある。



普及率の推移

汚水処理の現状

処理区名	供用開始	排除方式	面積	送水先
第1処理区	S44年度	合流式	727ha	落合水再生センター(暫定) 森ヶ崎水再生センター
第2処理区	S49年度	合流式	256ha	森ヶ崎水再生センター
第3処理区	S59年度	分流式	90ha	清瀬水再生センター



汚水処理区と送水先

用語：処理区、合流式下水道、水再生センター、流域別下水道整備総合計画（流総計画）、分流式下水道

## (2) 雨水排水の現状

雨水については、市域を4つの排水区に分けて排水しているが、市内に大きな河川がないため、排水は全て市外に依存している。

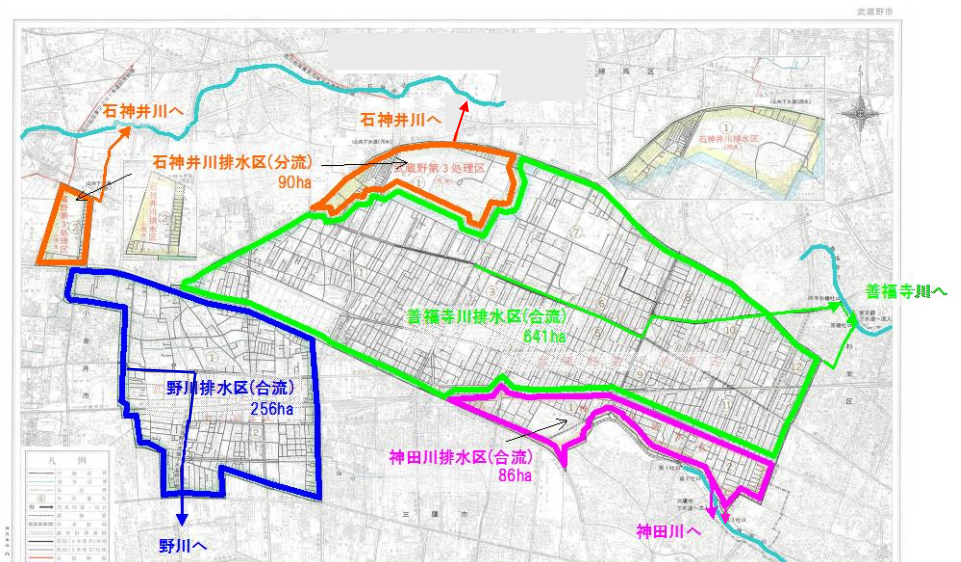
早くから整備を進めた善福寺川排水区と神田川排水区では、降雨強度40mm/時（1時間当たり40mmの降雨）で整備したが、市街化の進展に伴う安全性向上の必要性から、昭和44年に50mm/時を目標（整備水準）とする第二次下水道計画（幹線計画）を策定した。

しかし、雨水の放流先である善福寺川や神田川の改修が進んでいないことにより本市からの放流は制限を受けており、また一部の区間で都市計画道路の整備方針が未決定であるため、本市が整備計画を策定することは困難な状況にあり、第二次下水道計画（幹線計画）はいまだ未整備である。

また、下水道管への雨水の流出割合を示す流出係数は、都市化の進展に伴う空地・緑地等の雨水浸透域の減少によりこれまで増加傾向だったが、近年は各種流出抑制の取り組みにより改善の傾向が見られる。

雨水計画の概要

排水区名	整備水準	放流先
善福寺川排水区	40mm/時→50mm/時(計画)	善福寺川へ放流
神田川排水区	40mm/時→50mm/時(計画)	神田川へ放流
野川排水区	50mm/時	多摩川流域下水道野川第2幹線を経て野川へ放流
石神井川排水区	50mm/時	石神井川へ放流



雨水排水区と放流先

用語:排水区、善福寺川、神田川、降雨強度、第二次下水道計画（幹線計画）、流出係数、野川、流域下水道、石神井川

### (3) 課題

#### 1) 送水先の変更

汚水については、上位計画である東京都の流総計画に基づき、送水先を変更しなければならない状況にあり、送水先を変更するためには、新たな幹線管きよを整備する必要がある。

なお、善福寺川排水区の雨水の排水先については、東京都の河川整備計画等を踏まえた上で、今後検討を行う。



汚水処理区と送水先

処理区名	排除方式	送水先	対象面積	
武蔵野第一処理区 善福寺川排水区	合流式	落合水再生センター	→ 野川水再生センター	266ha
武蔵野第一処理区 善福寺川排水区	合流式		→ 森ヶ崎水再生センター	375ha
武蔵野第一処理区 神田川排水区	合流式	森ヶ崎水再生センター		86ha
武蔵野第二処理区 野川排水区	合流式	森ヶ崎水再生センター	→ 野川水再生センター	256ha
武蔵野第三処理区 石神井川排水区	分流式	清瀬水再生センター		90ha

#### 2) 雨水排水施設の整備水準の向上

善福寺川排水区及び神田川排水区の下水道施設の整備水準の目標は50mm/時だが、現在は40mm/時であるため、東京都による河川改修等を見据えつつ第二次下水道計画（幹線計画）を推進する必要がある。

また、平成28年度に築造した石神井川排水区雨水排水幹線への切替工事を実施し、早急な供用開始を目指す。

用語：流域別下水道整備総合計画（流総計画）、善福寺川、排水区、神田川、野川、石神井川、合流式下水道、分流式下水道、水再生センター、野川水再生センター、雨水排水施設、河川改修、第二次下水道計画（幹線計画）